

# 青年のステップアップ支援事業「自分さがし」への旅立ち

青少年の社会的自立を支援する!!



主催：国立能登青少年交流の家

・後援：新潟・富山・石川・福井・滋賀各県教育委員会、ハローワーク、ジョブカフェ石川、石川県若者しごと情報館、石川県臨床心理士会、石川県青年団協議会、石川県婦人団体協議会、NPO法人いしかわ市民活動ネットワークセンター、羽咋市商工会、社団法人羽咋青年会議所、北國新聞社

会場：国立能登青少年交流の家、石川県生涯学習センター、石川県地場産業振興センター

開催期日：①第1回「親のための講演会」7月30日(土)  
②第2回「親のための講演会」9月16日(土)  
③青少年フォーラム3月10日(土)

参加者：①対象：保護者等50名／参加人数45名  
②対象：保護者・青年40名／参加者12名(内訳：保護者等11名青年1名)  
③対象：保護者・一般120名／約100名

企画委員：坂口順治(元平安女学院大学学長)  
荒木龍平(羽咋市商工会会長)  
武山雅志(石川県立看護大学助教授)  
稲本 等(羽咋ハローワーク所長)  
植村まゆみ(ジョブカフェ石川センター長)

スタッフ：交流の家職員

## 目的

### ① 対応する青少年の課題

ニートやひきこもりの青年が、規則正しい生活を送り、自然体験活動や就労体験をする中で、自分に自信を持ち、働こうとする意欲を高め、社会人として必要な自立心や資質の向上を図る。

### ② 期待する成果

- ・ ニートに対応した青少年教育施設における一つのモデル事業を開発することができる。
- ・ 集団生活や仲間との交流活動を通して、集団生活に慣れる。
- ・ 自然体験や社会体験、就労体験などを通して、主体的に活動することへの自信を獲得することができる。
- ・ 将来の就職へのモチベーションを高めることができる。

### ①当初企画(3回シリーズ)

目標	ニートが、規則正しい生活を送り、自然体験活動や就労体験をする中で自分に自信を持つ。
活動内容	活動をステップアップしながら、集団宿泊生活体験、自然体験・奉仕体験、就労体験等を行う。

### ②講演会(2回実施)

目標	対象となる、保護者の悩みを和らげるとともに、保護者を通じて対象青年に広報を行う。
活動内容	2回の「親のための講演会」を開催し、質疑応答及び個別のカウンセリングを行う。

### ③フォーラム

目標	次代を担う自立した青少年の育成に向けて、広く社会に問いかけ、問題意識を持つ。
活動内容	有識者をパネリストに迎え、会場の参加者も含め、みんなで青少年の自立について考えるフォーラムを実施する。

## 事業の概要

- ① 未就労の青年が、長期間にわたり集団生活を体験しながら生活習慣を確立し、自信や自立心を得るための自然体験・奉仕体験・就労体験などの活動を行う計画とした。
- ② しかし、ニート本人の参加が困難であったため事業の内容を見直し、その保護者向けの講演会(相談会を含む)を実施した。
- ③ 中教審答申を受け、ニート、ひきこもりの保護者や広く社会に向けて、青少年の自立を考えるフォーラムを催した。

## 事業の背景

ニートと呼ばれる、いわゆる無業者が64万人(H17厚労省)を超え、フリーターも201万人(H17厚労省)を数えている。これらの青少年の自立支援策として文部科学省、厚生労働省等の関係者による「若者自立・挑戦プラン」が策定され、国を挙げてニートに対する施策が講じられている。

宿泊施設を有する青少年教育施設としてこれらの青年の自立支援を目指し、長期の事業を展開することは、国立施設としての役割・使命を果たすものである。また、産業界や地域等において、ようやくニートに対する取り組みが始まったところであり、青少年教育施設における一つの試行事業、モデル事業として実施するものである。

## 活動内容

### ① 企画1「自分さがしへの旅立ち」(対象:青年)

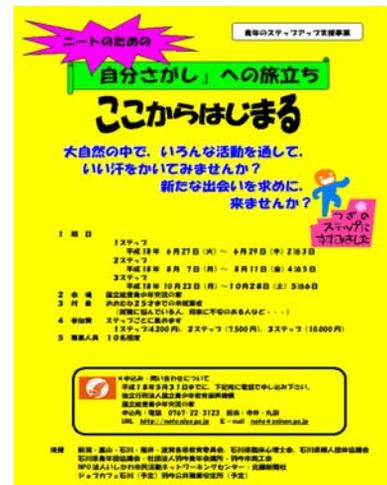
会場:国立能登青少年交流の家

1回目6/27~29, 2回目8/7~11, 3回目10/23~28

- ・ ニート、ひきこもり等を対象に「自分さがしへの旅立ち」を、年3回シリーズで企画。
- ・ 関係諸団体に後援を依頼するとともに、直接広報やマスメディアを通じての募集広報を広く展開した。保護者からの問い合わせや、事前面接に訪れた青年はいたが、参加にまでは踏み出すことができず、事業を変更して実施することとした。

### \* 企画の見直し

企画1「自分さがしへの旅立ち」の経緯から、保護者の関心が高く、そのニーズに対応するとともに、この事業を広く広報すること、保護者から当該の青年へとつなげていくことを目的に、企画2「親のための講演会」へと軌道修正した。



### ② 企画2「親のための講演会」(対象:保護者等)

会場:石川県生涯学習センター(7/30)

講師:加藤日出子(グッドハート滋賀代表)

- ・ 企画1の結果を受けて、参加対象者をニート、ひきこもり本人から保護者に変更。
- ・ 当交流の家の本企画を広く理解してもらうことを目的とする。
- ・ 参加者が参加しやすいよう、金沢市に会場を設けて開催。
- ・ 45名が参加した。
- ・ 参加者の関心が高く、多くの切実な質問があった。

### ③ 企画3「第2回親のための講演会」(対象:保護者、青年)

会場:国立能登青少年交流の家(9/16)

講師:坂口順治(元平安女学院大学学長)

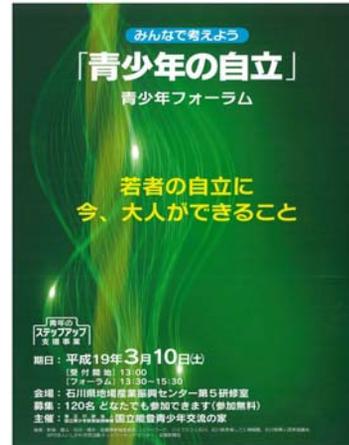
- ・ 企画2の結果を受けて、主に企画2の参加者を対象に、第2回目を開催。
- ・ 親子を対象に当交流の家で開催し、12名(青年1名)が参加した。
- ・ 講演会の後、相談会を開催し講師によるカウンセリングを行った。
- ・ 参加の青年は所内の見学と、アーチェリー体験を行った。

- ④ 企画4「自分さがしへの旅立ち」（対象：青年）  
 会場：国立能登青少年交流の家（11/27～29）
- 企画1～3の結果を受け、これまでの参加者に、青年を対象とした2泊3日の事業を企画した。
  - 保護者からは幾つか問い合わせがあったが、青年が実際に参加するまでには至らず、中止した。

- ⑤ 企画5 青少年フォーラム  
 みんなで考えよう「青少年の自立」  
 （対象：一般）

会場：石川県地場産業振興センター（3/10）

- 中教審答申（H19.1.30）の「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」を受け、大人や社会が青少年の自立のために、どのような支援ができるかを考えるフォーラムを実施した。
- 参加希望者が参加しやすい、金沢市で開催し保護者・青少年教育関係者など100名程の参加があった。



## ■主要プログラムトピック

青少年フォーラムのパネリストに、地元石川県出身の世界的パティシエ辻口博啓氏、元平安女学院大学学長坂口順治氏、ジョブカフェ石川センター長植村まゆみ氏、コーディネータにフリーキャスター横田幸子氏を迎えて「青少年の自立」について、参加者を交えた公開討論会を行った。各パネリストからは、それぞれの経験や立場を踏まえ、大人の役割や青少年とのかかわり方などについての意見が出された。参加者からは、「現在の若者は、話をしても返事が返ってこない」等の問題提起がなされた。

このフォーラムでは、社会環境の問題もあるが、青年にコミュニケーション、能力を育むこと、夢を持てるよう大人が支援すること、真剣に真っ直ぐ向かい合う大人が若者に必要であることなどが提言された。

## ■運営のポイント

### POINT 1

#### 企画委員会の開催

本事業は、まったく新しい試みであるため、ニートの実態や精神面、就業の現状等をあらゆる面から考察し、事業の具体的な内容や募集広報等を検討するため、外部から専門家・学識者5人を交えた企画委員会を設置した。2回の企画委員会で、事業の内容や方向性を話し合い企画に移した。

### POINT 2

#### 企画の修正

青年対象の事業では、保護者からの問い合わせはあったが、青年本人の参加には至らなかった。

保護者のニーズが高いことから、この事業を広く広報することと、保護者ら青年の参加へとつなげることを目的に、企画1から企画2「親のための講演会」へと企画を変更した。参加者が参加しやすいよう、会場を当交流の家にこだわらず金沢市でも行った。

### POINT 3

#### 公開討論

「青少年フォーラム」の開催

中教審答申の「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」を受け、若者を自立の道へ導くために、社会や大人はどのような支援ができるかを考えるフォーラムを金沢市で開催した。

## 事後の取組

### ①事後の取組

#### スタッフの事後検討会

- ・ 事業の都度、事後検討会をもち、その後の方向性を模索した。
- ・ 事業の状況について、企画委員との連絡を密にし、次の事業へとつなげた。

#### 参加者への事後フォロー

参加者へは、次の事業等の案内を随時行った。また、直接電話による相談にも応じた。

### ②普及についての取組内容

- ・ 事業の成果を報告書にまとめ、関係機関に配付する。
- ・ ホームページに事業の様子を掲載し、広く普及する。
- ・ 報道機関に事業の記事掲載を依頼し広く社会に発信する。

## 成果

### <青年に対して>

ニート、ひきこもりを対象として事業を展開してきたが、これらの青年を事業に参加させることは困難であった。関連団体とのネットワークを活かし、多方面から試みたが親からの問い合わせはあるが、青年本人の参加には行き着くことができず、教育施設の事業として成り立たせることが困難であることがわかった。

### <保護者に対して>

ニート、ひきこもりを持つ親にとっては、一日も早く子どもを立ち直らせたいたい思いが強く、情報には敏感である。また、保護者からは個別の懇談会を望む声が聞かれ、当該青年との対応の在り方や精神面でのサポートなどにつなげることができた。

さらに、フォーラムの開催により、青少年の自立に向けて大人や地域がなすべきことを広く社会に向け発信することができた。



## 今後の課題

### <事業の成果を受けて>

青少年教育施設として、ニート等を対象とした事業を行うことの意義は大きいですが、現在、全国で展開されている、厚労省関係の「若者自立塾」のように、実際に事業を成り立たせることは非常に困難である。今後は青少年教育施設としては、ニート、ひきこもり等の青年を対象とした対処的な事業よりも、青少年が将来ニートやひきこもりにならないよう様々な体験活動を通して自己存在感や達成感を味わうことのできる予防的な事業を実施する。

### <今後の事業の方向性>

特に、青年たちの興味・関心に沿った主体的な活動を促進していくため、青少年交流の家がその実践の場となるような企画事業に転換して実施する。

国立能登青少年交流の家 企画指導専門職 寺井 哲也

拠点紹介・・・国立能登青少年交流の家は、能登半島入り口にあたる石川県羽咋市。雄大な日本海を近くのにぞみ、深緑の映える湖や豊かな自然環境を持つ眉丈台地にある。①海型施設の立地条件を活かした砂像作りやいかだ航海体験、②湖でのカッターやカヌー体験、③緑豊かな自然の中を歩くウォークラリーやオリエンテーリングなどの自然体験活動が充実しています。

## 「自分さがしへの旅立ち」

### 1 趣旨

年々増加傾向にあるニートが、規則正しい生活を送り、自然体験活動や就労体験する中で、自分に自信を持ち、働こうとする意欲を高め、社会人として必要な自立心や資質の向上を図る。

### 2 企画委員会の設置

本事業は、まったく新しい試みであるため、ニートの実態や精神面、就業の現状等をあらゆる面から考察し、事業の具体的な内容や募集広報等を検討するため、専門家や学識者を交えた企画委員会を設置した。



### 3 事業の推移

#### ① 企画1「自分さがしへの旅立ち」(対象：青年)

会場：交流の家（1回目 6/27～29 2回目 8/7～11 3回目 10/23～28）

ニート、ひきこもり等を対象に「自分さがしへの旅立ち」を、年3回シリーズで企画した。その結果、保護者から幾つか問い合わせがあったが、実際の参加までには至らなかった。

#### ② 企画2「親のための講演会」(対象：保護者等)

会場：石川県生涯学習センター（7/30）

企画1の結果を受けて、参加対象者をニート、ひきこもり本人から保護者に対象を変え、当交流の家のこの企画を広く理解してもらうことを目的とし、「親のための講演会」を金沢に会場を設けて開催し、45名が参加した。



#### ③ 企画3「第2回親のための講演会」(対象：保護者，青年)

会場：交流の家（9/16）

企画2の結果を受けて、主に企画2の参加者を対象に、第2回の「親のための講演会」を、親子を対象に当交流の家で開催し、12名（青年1名）が参加した。講演会の後、相談会を開催し参加者のカウンセリングを講師が行った。



#### ④ 企画4「自分さがしへの旅立ち」(対象：青年)

会場：交流の家（11/27～29）

企画1～3の結果を受けながら、これまでの参加者に、青年を対象とした2泊3日の「自分さがしへの旅立ち」の広報を行った。保護者から幾つか問い合わせがあったが、実際の参加までには至らなかった。

#### ⑤ 企画5「青少年教育フォーラム みんなで考えよう少年・青年の自立」(対象：一般)

会場：石川県地場産業振興センター（3/10）

これまでの成果を受け、若者を自立の道へ導くために、社会や大人はどのような支援ができるかを考えるフォーラムを開催し、その成果を今後に活かす。

## 4 事業の成果

### ① 青年に対して

ニート、ひきこもりを対象として事業を展開してきたが、これらの青年を事業に参加させることは困難であった。関連団体とのネットワークを活かし、多方面から試みたが親からの問い合わせはあるが、青年本人の参加には行き着くことができず、教育施設の事業として成り立たせることが困難であることがわかった。

### ② 保護者に対して

ニート、ひきこもりを持つ親にとっては、一日も早く子どもを立ち直らせたいたい思いが強く、情報には敏感である。また、保護者からは個別の懇談会を望む声が聞かれ、当該青年との対応の在り方や精神面でのサポートなどにつなげることができた。

さらに、フォーラムの開催により、青少年の自立に向けて大人や地域がなすべきことを広く社会に向け発信することができた。

## 5 事業の成果を受けて

青少年教育施設として、ニート等を対象とした事業を行うことの意義は大きいですが、現在、全国で展開されている、厚労省関係の「若者自立塾」のように、実際に事業を成り立たせることは非常に困難である。今後は青少年教育施設としては、ニート、ひきこもり等の青年を対象とした対処的な事業よりも、青少年が将来ニートやひきこもりにならないよう様々な体験活動を通して自己存在感や達成感を味わうことのできる予防的な事業を実施する。